



Title	「中核市保健所に求められる行政薬剤師（薬事監視員）」
Author(s)	森本, 明
Citation	大阪公衆衛生. 2017, 88, p. 33-34
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78660
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「中核市保健所に求められる行政薬剤師（薬事監視員）」

森本 明

豊中市健康福祉部 保健所保健医療課 主幹（薬剤師）

昭和55年4月に大阪府に入庁し、行政薬剤師として薬事監視業務一筋に公務に携わってきました。しかし、豊中市が中核市に移行する平成24年4月、府からの出向辞令を受け、豊中市保健所で医事及び薬事の行政担当部署へ配属されました。豊中市では主幹という管理職の立場で、医療及び薬事行政の総括とともに、新たに市に採用された約10数名の行政薬剤師の育成が自分に与えられたミッションでありました。これは、中核市全体に言えることですが、府からの出向職員は、多年に亘る業務経験者であります。市に新たに採用される職員は若い薬剤師ばかりであるということです。

（下記「市薬剤師の年齢構成」）

所属	グループ(係)	職階	年齢	入庁
保健企画課	医事薬事	主幹	57	平成25年4月1日
		主事	34	平成24年4月1日
			31	平成24年4月1日
			26	平成26年4月1日
衛生管理課	環境衛生	主事	39	平成26年4月1日
			30	平成23年4月1日
			26	平成24年4月1日
	食品衛生	主事	30	平成24年4月1日
			30	平成24年4月1日
			30	平成24年4月1日
			26	平成24年4月1日
	検査		28	平成23年4月1日
			27	平成24年4月1日

この状況の中、自分が退職となる平成28年度末までに、中核市が求める行政薬剤師を育成、確保することが喫緊の課題であると改めて認識しました。そこで、若い行政薬剤師達が、将来どのような業務に携わり、自ら成長し目標に向かって進んでもらうべきかを示すこと。府では数十年をかけ習得した知識と経験に裏打ちされた行政指導の技量を、如何に短期間で身に付けさせるのか。それに着手することにしました。

まず、都道府県（大阪府）と中核市（豊中市）の違いについて考えてみました。

次の図は、府と市のメリット、デメリットであります。中核市が求める行政薬剤師を作るには、市のデメリットを解消する対策とメリットを生かした事業の実現だと考えました。そこで、まず、メリットを生かした事業について説明します。

	メリット	デメリット
大阪府 (府の保健所)	①生涯同じ専門職 ⇒専門性が高い ②勤務先が広範囲 ⇒異動先多数 ③その他 ・職員数が多い ⇒きめ細かな業務が可能 ・毎年、新人を採用 ⇒年齢に偏りがない	①生涯同じ専門職 ⇒人事交流なし ②勤務先が広範囲 ⇒地域の各団体との連携が困難 ③予算化は本庁のみ ⇒独自事業の実施が困難
豊中市 (市の保健所)	①複数の専門職種を経験 ⇒有事の相互対応が可能 ②地域に密着した独自事業 ⇒課題に即した事業展開 ③地域団体等との協働事業 ⇒効率かつ効果的な事業	①人材確保(若手多い) ⇒議会対応や職能団体との交渉等 ベテラン職員 ②職員のモチベーションの維持 ⇒転職他 ③新たな権限移譲への対応等 ⇒行政指導の低下

府には、勤務場所（本庁及び保健所）が多くあるが故に、地域の団体、住民との関係性が希薄になります。その為、地域に密着した細やかな事業を実現することが困難となります。（しかし、業者との癒着等の問題はなくなります。）

一方、市は勤務場所が保健所一か所である為、地域との関係性は濃いものとなることから、地域の諸団体と連携し、より効果的な事業を企画することができます。この事業を若手薬剤師と一緒に実現することで、何が中核市の行政薬剤師（薬事監視担当者）に求められているのかを学んでもらうことができます。以下に、この市のメリットを生かした事業を紹介します。

（以下「中核市だからこそできる事業」）

中核市の薬剤師だからこそできる業務1

薬剤師の職能を活かして

1. 市民の健康づくり支援業務
 - 地域の薬剤師、病院薬剤師等と連携した各種事業（健康相談、健康情報の発信、お薬教育）
2. 危機管理業務
 - 1) 災害時における医薬品の確保
 - 2) 被災地支援への参画(DHEAT等)
3. その他医療に関する業務
 - 1) 結核関係
 - ①DOTS事業
 - 地域の薬剤師会との調整
 - ②患者の服薬支援
 - 2) 糖尿病対策関係
 - 薬の作用等を判りやすく説明し、アドヒアランスの向上に繋げる
 - 3) 医療相談関係
 - 医薬品(主に医療用医薬品)に関する苦情、相談

**中核市の薬剤師だからこそできる業務2
「薬の知識」に関する市民啓発**

1. 実施目的
インターネット等を通じて購入使用する一般用医薬品の業者から一人でも多くの市民を守るため、「医薬品の正しい知識の普及」を目的とした本講習会を実施するものである。

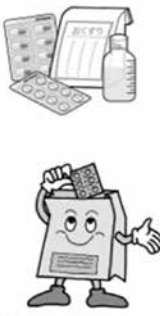
2. 実施主体
主催：豊中市
協力：豊中市薬剤師会
豊中市病院連絡協議会 薬局長部会

3. 実施時期
1) 第1回 平成28年11月 1日(火) PM2:00～4:00(2時間)
2) 第2回 平成28年11月15日(火) PM2:00～4:00(2時間)
3) 第3回 平成28年11月29日(火) PM2:00～4:00(2時間)
4) 第4回 平成28年12月13日(火) PM1:30～4:30(3時間)

4. 実施(受講)場所と時間
千里公民館 2F 第4講座室(豊中市新千里東町1-2-2)

5. 受講対象
豊中市在住の市民 30名

6. 講習内容
別添「知っておきたい薬の知識(みんなの薬理)」(冊子)を利用する。



上記の事業は、全4回に亘る「医薬品適正使用」の啓発事業であります。100ページ程度の読本を作成し、1講座40枚以上のパワーポイント資料を地元の薬局薬剤師及び病院薬剤師と一緒に作成しました。構想から実現まで3年近くを要しています。このような事業を実現できたのも、地域の諸団体との緊密な関係と市民目線に立った行政薬剤師の企画力があつたからこそであります。本事業は2025年の「地域包括ケアシステム」の実現に向け、継続していってみたいと考えています。

次に、デメリットを解消する為の対策であります。府の場合、薬事行政一筋に40年余りの業務に携わる訳ですから、豊富な経験と膨大な知識の上に立った行政指導を行えます。一方、市では薬事行政以外に環境、食品等の衛生行政及び検査業務、場合によっては臨床業務にも携わるので、薬事行政に携わる期間は、多くても10年未満。当然府と市では、その経験と知識には大きな差ができます。その差を少しでも埋めるため、より効率的な人材育成を目指したプラン作り(下記図)と自己研鑽を目的とした勉強会の発足を行いました。

**課題に対する対策1
豊中市保健所薬剤師人材育成プラン**

1. 目的
衛生管理課の三係(食品、環境、検査)及び保健医療課の一係(医事薬事)が実施している業務は、市民の安全安心及びよりよい医療の実現など市民生活に直結する重要な業務であり、より質の高い衛生行政を行っていく為にも、中長期に亘る人材育成プランの元、計画的に人材を育成していく。

2. 内容
(1) 保健所薬剤師に必要な能力と資質
① 共通する能力
② 必要な知識とスキルなど(各業務別)
(2) 人材育成の方向性(各業務別)
① 食品衛生関係業務等
(3) 人材育成の具体的な取り組み
① キャリア形成支援
② 研修の推進
(4) パターン別採用後の異動に対する考え方
(5) プランの対象期間



また、府に劣らない高度な行政指導を実現し、府内の平準化を目的に、自分が30数年経験してきた薬事行政での経験、知識を文書化(形式知化)した「内規集」《全100ページ余り》(下記図)を作成しました。これらの対策を通じ、業者指導面でも府に劣る部分の解消を目指した対策を実施できたと考えています。

**課題に対する対策2
薬事関係業務内規集**

1. 目的
豊中市が中核市となり、実施して薬事行政業務は、行政薬剤師職と言う、市には従前からいなかった専門職(薬剤師)が担う業務であります。これらの業務は法律や基準に基づき実施しているわけですが、個別ケースによっては、過去の経緯、国、府発出の通知の目的等を総合的に判断しなければならない事も多い。しかしながら、市が採用しているのは若手薬剤師であるため、市独自の薬事行政を早急に確立しなければならない。そこで、法や基準に明記されていない運用上の内規等について、文書化した「内規集」をまとめた。

2. 内容
薬局、店舗販売業他に関する【審査関係】、【監視関係】、【措置関係】
【その他】
・ 調剤ミスに関する行政処分について
・ 添付資料の省略について
・ 立入調査の必要性について
・ 受付番号と指令番号のルールについて
・ 管理者の業務について
・ 登録販売者の資格要件と業務内容について 等



平成30年度には八尾市、その後、寝屋川市、吹田市、茨木市等も中核市移行を検討されている状況を踏まえ、中核市に求められる行政薬剤師の育成は急務であると考えています。

市民だけでなく、指導を受ける業者までも「中核市になって良くなった」と言ってもらえる中核市行政の実現に向け、優秀な行政薬剤師が生まれることを切に願っています。